

## 山菜の生産・流通・経営に関する研究 (I)

— ミョウガ —

鹿児島県林業試験場 東中 修

## 1. はじめに

近年国民生活の多様化や自然食品への志向から山菜の需要は増加しつつある。そこで行政機関に依頼して山菜栽培の実態調査を行い、そのなかからミョウガの栽培事例について経営分析を行ったので報告したい。

## 2. 分析農家の栽培管理・出荷

蒲生町のミョウガの生産高は県下でも1位を占めている。その中で最優良品を出荷しているのが蒲生町のA氏である。A氏に2年間経営調査をお願いして経営分析をした。

昭和56年ミョウガを約18a植栽して9年間同じ場所で栽培している。ミョウガ畑の地形は南向きであるが、畑のまわりにはスギ林があり1日中の日射はない。土壌は壤土で水はけもよく環境条件はよい。A氏の栽培管理は表-1に示すとおりである。植付けて2~3年もすると茎や地下茎が混みあい花蕾が少なくなるので毎年1~2月頃畝を1mおきに30cmの幅で掘りとり地下茎の間引をしている。

この地下茎の間引は相当な重労働である。2月には10a当たり化成肥料170kg (N34kg) と牛糞堆肥4,000kgを地表面にバラマキ施肥している。堆肥を多く与えると、花蕾の紅つきが良くなる。3月にはいと乾燥防止と品質向上のため敷きワラを10a当たり、740束、8cmの厚さに敷込む。5月にはいりミョウガの本葉が6~7枚になった頃、日光を入れて地温を上げ花蕾の発生を早めさせるため、にぎりこぶしが入る位の間隔(1㎡当り70~80本)に間引きする。6~7月は収穫となるが、これは一番手間をくう。元年度は全労働量の53%が収穫のためであった。

花蕾の収穫は花が開く前に取る。同じ場所からは1週間に1回程度収穫する。収穫後は不純物を除去するため水洗をし、日陰で水切りを行う。これを等級・階級別に選別し50gパックにつめる。蒲生町農協の場合は14パックを段ボール1箱に入れて出荷している。

表-1 ミョウガの栽培管理表 (10a当り) 元年

月 区分	1~2	2	3	4	5	6~7	12	合計
管 理	地下茎 の間引	施 肥 除草剤	数ワラ	除草	上部茎 の間引	収穫	施肥	-
所要労働 日数 (日)	5.7	4.8	3.7	3.4	10.3	31.7	0.6	60.2
比率 (%)	9	8	6	6	17	53	1	100

## 3. 経営分析

表-2はA氏の63年、元年の10a当りの収益性について示したものであるが、次のような特徴がある。

(1) 生産量は63年345.6kg (平均単価2,308円)であったが元年は不作のため、生産量は175.9kgであり平均単価は2,912円と高かった。また、栽培環境と技術が高度なため図-1に示すとおり、元年の平均単価(2,912円)は県内の平均単価(1,883円)の1.5倍である。

このほか図-2に示すとおり63年では霧島町のB氏(平均単価1,682円)と比較した場合、早期出荷・高品質のため1.4倍の平均単価となっている。

(2) 粗利益の中に占める販売経費の割合を計算してみると26%となる。

(3) 昭和63年度の労働1日当り所得は7,426円であったが、元年度の収量は前年度の半分であったので1日当り所得も4,639円しかなかった。

(4) 経営規模としては、夫婦2人の労働のため20aが限度と考える。しかし、他の農作業との競合等によって異なることから適期収穫できる範囲内で決めた方がよい。

(5) 収穫の期日が比較的短かく、労働投下量も6~7月に集中しているため、他の作目との複合経営が容易である。

## 4. 流通及び価格

ミョウガの流通は図-3に示すとおりである。県経済連経由で東京、大阪への県外出荷が主体である。これらの約70%がスーパー等の量販店へ、残り30%が八百屋等へ出荷されている。

また、市場価格の推移は表-3に示すとおりである。鹿児島市場の5年間の取扱量は12~15ton前後で推移している。価格はkg当り600~900円である。入荷量のうち県内産は59%、県外産41%となっている。

県経済連経由の出荷量は30~40tonで推移しているが、価格は鹿児島市場の約2~3倍となっている。

このなかでも蒲生農協は県経済連経由で、横浜市場に出荷しているが、厳正な選別をしているため県下ではトップの価格を維持している。

表-2 ミョウガの収益性 (10a当り) (63年・元年)

項目	金額		備考	
	63年	元年		
①粗収益	797,531	527,649	収量 平均単価 (kg当り) 63年 345.6kg 2,308円 横浜市場 元年 175.9kg 2,912円	
経 営 費	種 苗	0	0	植栽後8~9年目
	肥 料	27,689	30,543	堆肥・化成肥料・石灰
	農 薬	1,257	1,257	除草剤
	光 熱 費	11,429	11,429	燃料代ほか
	諸 材 料	45,714	37,143	敷ワラ
	償 却 費	31,906	31,906	倉庫・トラック・耕耘機・動噴他
	販 売 経 費	206,478	136,103	出荷資材・運賃・手数料
②経営費計	324,470	248,381		
③所得	473,061	279,268	①-②	
④所得率 (%)	59	53	③÷①×100	
⑤所要労働日数	63.7	60.2	自家労働力のみ	
⑥労働1日当り所得	7,426	4,639	③÷⑤	

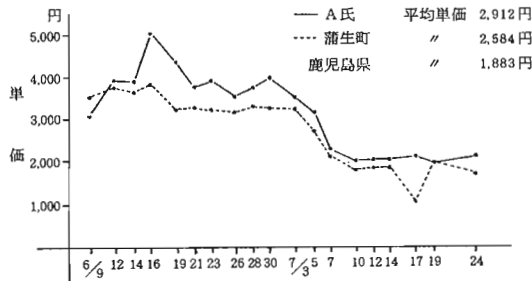


図-1 ミョウガの価格推移 (元年)

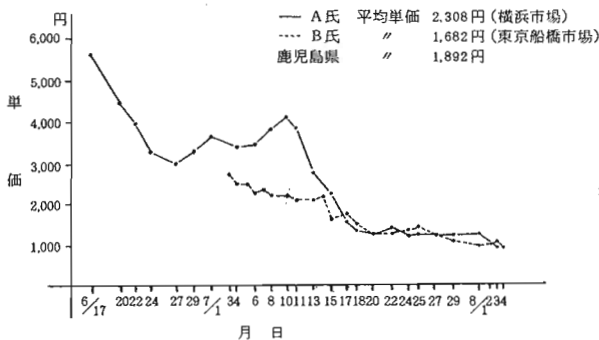


図-2 ミョウガの価格推移 (63年)

表-3 ミョウガの価格推移

区分	年	59	60	61	62	63	元年
		鹿児島市場	kg当り 平均価格	665	932	798	732
鹿児島市場	入 荷 量	15	12	14	14	15	-
県経済連	kg当り 平均単価	-	1,841	1,832	1,509	1,892	1,883
出荷分	蒲生町 平均単価	-	-	2,090	1,739	2,459	2,584
出荷分	出 荷 量	-	26	29	43	44	28

資料：鹿児島市場年報，県経済連

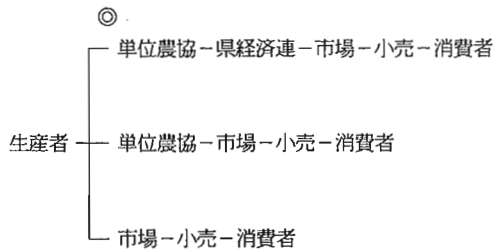


図-3 ミョウガの流通図